

酒類ガイドライン遵守推進本部だより

ほろにかが

平成 21 年 10 月 14 日

全国卸売酒販組合中央会  
酒類ガイドライン遵守推進本部

## 「CO<sub>2</sub> 25%削減」その時酒類業界は！

委員 池田 正三郎

先月の総選挙におきまして新しい政権がスタートし、鳩山首相就任の挨拶、また国連の場において「CO<sub>2</sub> 25%削減」という数値目標が世界に向けて発表されました。目標達成に向けて、国を挙げてすべての業界、業種また企業から各家庭迄、総力で取り組まなければ達成できる数値ではありません。

2006年にはオーストラリア全土が過去最悪の干ばつに見舞われ、小麦や大豆の生産が激減、2007年にはヨーロッパ各地で大洪水。ルーマニアでは気温が44℃に達し、ハンガリーでは猛暑で死者500人、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカ大陸各地で山火事頻発。インド、バングラディッシュでは大規模な洪水、中国重慶でも大雨により大規模災害、日本でも各地でゲリラ豪雨の災害発生。

このように地球温暖化の進行は「温暖化」という言葉のソフトな響きとは裏腹に、人類にとっても他の多くの生物種にとっても滅亡の危機に直面しているのではなかろうか。

わが日本もまた我々酒類業界も排出量削減やエコイノベーションで世界の動きに乗遅れないよう、温暖化対策へ真剣に取り組む時だと考えます。

USのウォルマートは、この2009年度中に全店舗ですべてのエネルギーを再生可能エネルギーに転換すると宣言、また英国のスーパーマーケット、テスコは7万点の商品すべてにCO<sub>2</sub>排出に関するラベルを貼る計画、このラベルで消費者は温暖化防止に貢献できるかどうか、容易に製品比較をすることが可能になる。さらに配送センターのCO<sub>2</sub>排出量を2020年までに50%削減、航空輸送は全商品1%に制限、マークをつけて分かるようにするとしている。スウェーデンでは大手40社が2020年までに30%、2050年までに60~80%温室効果ガスの削減を目標にすると共同宣言。

日本のスーパーはどうだろうか。そのとき我々卸業者は対応していけるだろうか。環

境問題は他人事ではなく、本来の事業の外側に常にくっついていて認識を持っているだろうか。大手スーパーの新しい販売方法、深夜販売ができなくなるかもしれないCVS。早く消えるネオン、リターナブル容器に変わるアルコール飲料。時代が1970年へタイムスリップ！街のお酒屋さんに元気が出て飲み会も増えるかも。21世紀の新しい飲酒スタイル、飲酒文化を構築するチャンスかも？

## ○ 平成21年9月ビール及び発泡酒等の出荷状況

(単位:kℓ・%)

期間 区分	9月			1～9月		
	当月数量	前年数量	前年比	本年数量	前年数量	前年比
ビール	230,052	244,562	94.1	2,181,718	2,352,462	92.7
発泡酒	96,078	117,857	81.5	905,439	1,074,108	84.5
小計	326,130	362,419	90.0	3,087,157	3,423,570	90.2
新ジャンル	169,172	133,014	127.0	1,283,769	1,053,300	121.9
計	495,302	495,433	100.0	4,370,926	4,476,870	97.6